

29. 野鳥観察

1. ねらい

野鳥を観察することにより、自然にふれ自然を愛する心情を培います。

2. 時期・時間

- ・年間を通じて活動可能。早朝がお勧めです。
少し早起きして、朝の集いが始まる前に野鳥観察はいかがですか？
- ・30分～



～ コゲラ ～

3. 準備

自然の家で貸し出しできる物	利用者が準備する物
無線機、双眼鏡、フィールドスコープ 野鳥図鑑（指導者用）	筆記用具、記録用紙、目立たない服装 野鳥図鑑等、カメラ、ビデオ等

4. 曽爾高原で見られる野鳥

《水辺》キセキレイ、セグロセキレイ、オオジシギ
《草地》ホオアカ、ヒバリ、ウグイス、キジ、ホオジロ、セッカ
《林》オオルリ、コゲラ、カッコウ、ヤブサメ、カケス、ヤマガラ
《その他》イワツバメ、ツバメ、トビ

5. 活動内容

- ・指導者は、野鳥観察用具一式を準備します。貸し出し物品は事務室まで取りにきてください。
- ・参加者の服装点検、健康チェックは、忘れないようにしてください。
- ・移動するときは、鳥を驚かさないう静かに行動することを心がけてください。

A：初めて野鳥観察をされる方へ

- ・「これでなければ野鳥観察では無い」といった決まった形式はありません。
- ・野鳥に目を向け、耳を傾けることが大切です。
- ・遠くにいる野鳥を近くに見るためには、双眼鏡が手軽です。
- ・操作が少し難しくなりますが、フィールドスコープも貸し出しできます。
野鳥の姿をよりはっきりと見ることができます。
- ・野鳥をじっくり見ることができたら、その特徴を記録する思い出になります。
記録をもとに、図鑑で野鳥の名前を見つけるのも楽しみになります。
（各種図鑑は、2フロビーにて自由に閲覧することができます。
持ち出しはご遠慮ください。）
- ・少し慣れたら、カメラやビデオでの記録に挑戦してみてください。

B：大人数で野鳥観察をされる方へ

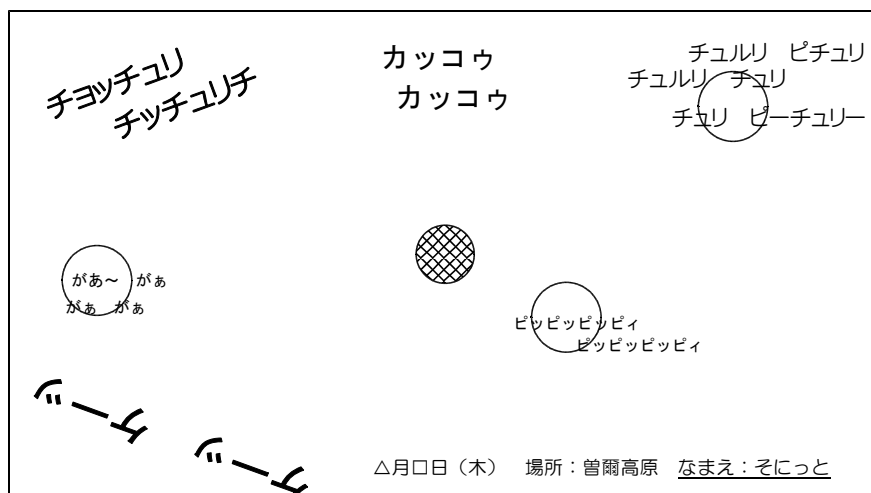
*野鳥に詳しい方がいなければ、学校単位・クラス単位で野鳥観察をすることは難しいです。
そこで、『野鳥を観察する目的とした』活動ではなく、野鳥をきっかけに『自然への関心を高めることを目的とした』活動を紹介します。

- ①野鳥観察シートを作成します。シートは紙(A4が適当)の中心に印(●でも☆でも)をつけ、名前・年月日・場所を記入する欄を設けます。
- ②これからの活動を説明した後に、野鳥観察ポイントに移動します。
*この際に、活動時間(最低5分は用意してください)や移動範囲などの事前に説明すべきことも伝えておきます。

※活動の流れ

- 野鳥観察ポイントまで移動します。(静かに移動するように注意) ⇒
⇒一旦集合した後に、各自(各班)落ち着ける場所を探して解散します。 ⇒
⇒その場で鳥の鳴き声を探します。(鳥の音が聞こえやすいように静かに観察してください。) ⇒
⇒鳴き声が聞こえたらシートに聞こえたままに記入します。
(中心の印を自分の位置として、方角と距離を考えて記入します。)
鳴き声にあった文字を選んだり、その大きさを考えるとより楽しくなります。 ⇒
⇒もし、野鳥の姿を見ることができたら、その鳴き声に○をつけてみましょう。 ⇒
⇒観察終了後は各自のシートを見せあいながら、感想を紹介しあいましょう。

(シートの例)



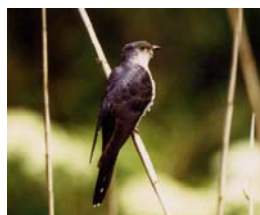
*ぜひ、ハイキングや登山の活動の中にも取り入れてみてください。

5. 留意点

- (1) 自然を大切にしてください。(木を折ったり、きずつけたりしないようにしてください)
- (2) 野鳥を捕獲してはいけません。
- (3) 道をそれて茂みなどに入ることがあります。足元に十分注意します。
また有害昆虫(ハチ等)やヘビなどに注意しましょう。



～ セッカ ～



～ ホトトギス ～



～ セグロセキレイ ～